

せいけん  
詩集

第四十一篇

作：近藤せいけん

# 「二十一世紀後半」

私は二十一世紀後半を

見ることは出来ない

どんな後半なのか

見てみたい

私の幼い孫たちはきっと

そこにいるに違いない

孫たちのこれから生まれくる

子供たちの世紀

私は その街角に

立つことは出来ないが

今 祈ることは出来る

幸せに満ちた 世紀であれと

人は空気を吸わなければ

生きてゆけない

水 作物 この星のあらゆる

生き物と仲良くしなければ

生きつづけて ゆけない

科学 技術の進歩も大事

しかし もっと大切なもの

この地球という星 忘れないでほしい

